

ポーランド人の苗字の形態論的分析

渡辺克義

はじめに

日本では驚くべきことに苗字のヴァリエーションの総数すらわかっていない。10万種とも30万種とも言われ¹、正確なところは不明である。戸籍を基に国がデータを整理すれば苗字の総数など即時に判明するはずであるが、プライバシーの保護などを理由にいまだ行われていない。こうしたこともあって、苗字研究は好事家の道楽程度にしか扱われていないのが我が国の現状である。

一方、ポーランドでは固有名詞研究は一学問領域を形成しており、専門誌 *Onomastica* も刊行されている。歴史学、地理学、民俗学などとの学際的研究として認知されているのである。苗字に関しても既に全国的な調査結果があり、それは *Słownik nazwisk współcześnie w Polsce używanych*, wyd. K. Rymut, t. I-X, Kraków 1995² (以下、略称 *SNW* を用いる) に結実している。*SNW* によれば、ポーランド人の姓のヴァリエーションは40万種を超える。人口4千万弱の国でこの数字は文字通り驚異的と言ってよいだろう。

日本で苗字が全国的に普及したのは室町時代とされているが、江戸時代には苗字の使用は帯刀とともに制限されていた。結局、国民のすべてが姓を有するようになるのは明治維新以降である(武光 1998)。

一方、ポーランドでは15世紀末までに苗字の原型が確立されたとされている。これは、兵役や税の取り立てを行う際に、名(ファースト・ネーム)だけでは重複が多く都合が悪かったことが理由である。そこで、人物を特定する必要から附属の要素(苗字の原型)が用いられるようになったのである(Kaleta 1997: 25; Malec 1996: 37-38; Zawadzki 2002: 15)。

ところで、ポーランド人の姓に関しては、米国人の間に固定観念があるらしい。すなわ

¹ 例えば、「たきざわ」という姓に対し、表記の異なる「滝沢」「滝澤」「瀧沢」「瀧澤」をそれぞれ別々の姓と考えるか否かで苗字の総数に影響が出てくる。ポーランドでもこの種の例がないわけではないが(例: Jaskółka, Jasułka), その数は日本の場合とは比較にならないほど少数である。

日本の場合、読みの違い(例えば、「坂上」と書いて、「さかがみ」と読むか「さかうえ」と読むかなど)もあり、事態はいっそう複雑である。

² ポーランドではこの種の事典の必要性が1960年代から叫ばれていた(cf. Taszycki 1967; Borek 1982)。

ち、どんな姓も -ski で終わるといふものである¹。-ski 型姓を持つポーランド人の数が突出しているのは事実であるが^{2,4}、これが誤った固定観念であることは言うまでもない。

本稿では、ポーランド人の苗字の実態について、とくにその形態に注目し、考察を試みたい。

1. 父名派生型

父名派生型は父（先祖）の名前に接尾辞 -ic (z), -owicz を付すことにより作られた苗字である。現在のポーランドではこの種の姓（またはそれに倣った形）を持つ人は少くない（例：Ambrowicz, Janic, Janowicz, Krzysztofowicz）。

15 世紀末までに、他言語からポーランド語に入った 485 種の洗礼名が記録されている。これらから、主として接尾辞の付加（例：Piotr から Piotral, Piotraszec, Piotrosz, Piotrusz などが派生）により 2150 の異形が生まれているが、今日それらは苗字として用いられている（Kaleta 1997: 32）。

16 世紀以降、指小形を形成する他の接尾辞も用いられようになった（Malec 1996: 53）。とりわけ、-k で終わるもの（-ak, -czyk, -ek, -ik など）が多い（例：Adamiak, Ambrozak, Bartniczek, Ignacek, Izydorczyk, Krzysztofik, Włodarczyk）。

父（先祖）の名がそのままの形で（すなわち、接尾辞の追加がないままに）、姓として用いられているものがある（例：Marek, Robert, Roman, Wiktor）。こうした苗字を持つ人が社会生活を営む上で種々の困難に出遭い、不都合を抱えていることは想像に難くない。改姓を申請する事例（後述）が少なくないことも首肯されよう。

2. 母名派生型

数は極端に少ないが、この型も存在する（例：Agnieszka, Ewa, Jagata, Magdzia）。さらに、指小形を形成する接尾辞 -ak, -arz を付したものも存在する（例：Agnieszczak, Ewiak,

¹ 沼野（1988: 86 - 87）は米国のポーリッシュ・ジョークの例として次を紹介している。

「緑色をしていて、ポーランドの上を飛ぶものは何だ？」

「ピーター・パンスキ Peter Panski」

「じゃあ、長い傘をさして、ポーランドを飛び回るものは？」

「メリー・ポピンスキ Mary Poppinski」

² Zawadzki (2002) は 2000 年におけるポーランド政府の情報機関「住民一覧全国電子システム」(Powszechny Elektroniczny System Ewidencji Ludności, 略称 PESEL) の資料を用いて、最もポピュラーな苗字を 1000 位まで特定した。この 1000 姓のうち、-ski 型 (-cki (4.9%), -dzki (0.4%) を含む) が 35.6% で、1 位を占めている。それ以外は次の通り。-ak 型 (11.6%), -ek 型 (8.6%), -yk 型 (4.2%), -ka 型 (3.2%), -ik 型 (3.1%), -ewicz 型 (1.4%), -owicz 型 (0.9%), その他 (31.4%)。

Jagnieszczak, Jewiak, Jewiarz, Magdziak, Magdziarz)。

3. 地名派生型

日本人の姓は9割近くが地名に由来すると言われるが(丹羽 2002), ポーランド人の姓においても同種のもは少なくない。

3.1. 地名派生の形容詞を転用した姓

接尾辞 *-ski* (*-ański, -ecki, -eński, -ewski, -icki, -iński, -ocki, -owski, -yński* などのヴァリエーションがある) を付したこの型の姓は種類、数ともに多い。次はそうした例である。

Bocheński < Bochen; Krakowski < Kraków; Łazowski < Łazy; Magnuszewski < Magnuszew;
Maliński < Malinie, Małe; Przemyski < Przemyśl; Przybiński < Przybina; Raclawski < Raclawice;
Woleński < Wola, Wrocławski < Wrocław

この型の姓はさらに次のような分類が可能である。

a. いわゆる単純接尾辞に終わる地名に, そのまま *-ski* を付加した姓

例: Aleksandrowski < Aleksandr-ów, Babszyński < Babsz-yn, Kuciński < Kutn-no

b. 地名から *-ice, -ino, -no* などの接尾辞(*-ow, -ew* は原則対象外)を取り去ったものに, *-ski* を付加した姓

例: Bogusławski < Bogusław-ice, Bodzęcki < Bodzęc-ino, Wąwelski < Wąwel-no

c. *-owice, -ewice, -owiec, -owka* などの拡大接尾辞(拡張要素 *-ow-* など + 本来の接尾辞 *-ice, -ec, -ka*) で終わる地名から本来の接尾辞を取り去ったものに *-ski* を付加した姓

例: Abramowski < Abram-ow-ice, Howski < H-ow-ice, Olszowski < Olsz-ow-ka

拡大接尾辞のすべてをそのまま残し, それに *-ski* を加えた姓

例: Wierzbowiecki < Wierzb-ow-iec

d. 接尾辞なしで終わる地名に *-ski* を付した姓

例: Babski < Baby, Lubomirski < Lubomirz

e. 接尾辞を付加したあとに, さらに *-ski* を付した姓

例: Bykowski < Byki, Grzędziński < Grzęda

16世紀以降, 一般市民の姓として普通名詞転用型(後述)が広がりを見せた。一方, 社会上層部を占める土地所有者の貴族(マグナト *magnat*, シュラフタ *szlachta*)は地名に由来する *-ski* 型を使用していた。土地を所有しようとする事, 貴族階級に入ろうとすることは, *-ski* 型姓を得ようとする努力につながるものであった。こうしたことから, *-ski*

型姓は“より良き姓”という固定観念が形成されようになり、その流れは今日に至るも払拭されていない (Kaleta 1997 : 32-34 ; Malec 1996 : 44-45)。

3.2. 地名をそのまま転用した姓

Bochnia, Gliwice, Kalisz, Wieliczka など、地名がそのまま苗字となっているケースがある。これらは、「～出の」を表す ラテン語の de (すなわち、もとは de Bochnia) が脱落したものと考えられる (Malec 1996 : 55)。

時に地名の生格と同形の姓が存在するが (例 : Gorzyc < Gorzyce, Liszek < Liszki, Pilzna < Pilzno), これは上例と同じ理由で、「～出の」を表すポーランド語の z (すなわち、もとは z Gorzyc) が省略されたものであろう (Kaleta 1997 : 28 ; Malec 1996 : 55)。

3.3. その他の地名派生型の姓

- 例 : -ak: Krakowiak < Kraków, Prażak < Praga, Radomiak < Radom, Sierdzak < Sieradz,
Warszawiak < Warszawa
-an: Krakowian < Kraków, Łęczyczan < Łęczycza, Sierdzan < Sieradz, Warszawian <
Warszawa
-czyk : Krakowczyk < Kraków, Lubelczyk < Lublin, Poznańczyk < Poznań, Tarnowczyk <
Tarnów
-ic / -yc: Sanoczyc < Sanok

ラテン語起源の語尾 -anus, -eus, -ius (Ostrorog-eus < Ostrorog, Bylic-ius < Bylice), ギリシア語起源の語尾 -ita (Warszow-ita < Warszawa) を持つ地名派生の姓は、知識人の出を表しているといわれる (Kaleta 1997 : 28)。

さらに、民族名がそのまま苗字になっている例がある。

- 例 : Chorwat (クロアチア人), Cygan (ロマ, ジプシー), Polak (ポーランド人), Szwed (スウェーデン人), Litwin (リトアニア人), Węgier (ハンガリー人)

4. 一般名詞 (名詞として用いられる形容詞を含む) 派生型

4.1. 綽名派生型

綽名派生型は必ずしも少数ではない。

- 例 : Baran (雄羊 ; 鈍間), Biały (白い), Kluska (団子), Kopyto (蹄), Korytko (飼葉桶), Łopatka (スコップ), Paw (孔雀 ; 反吐), Siekierka (斧), Żaba (蛙)

4.2. 職業名派生型

職業や役職などの観点から人物特定に用いられ、その後姓となったものがある。

例：Kowal (鍛冶屋), Rzeźnik (肉屋；屠殺者), Sołtys (村長), Starosta (族長), Szewc (靴職人)

4.3. 地形型

この型の姓は、当該人物の住居の所在地を表すものとして発生したものと考えられる (Malec 1996 : 51)。

例：Dolina (谷) ; Nakonieczny, Konieczny < na końcu (端に) ; Pagórek (高台) ; Zawodny, Zawodni < za wodą (川向こうに)

4.4 その他

普通名詞に接尾辞を付してできた姓がある。

例：Dęborsz < dąb (オーク) ; Duszota < dusz (魂) ; Latosz < lato (夏) ; Mrozoń < mróz (氷点下の寒さ) ; Piwoń < piwo (ビール), piwonia (シクヤク) ; Rakala < rak (ザリガニ) ; Zębala < ząb (歯)

これらの苗字は綽名派生型からさらに転じたとも考えられよう。

5. 外国起源の姓

古来からのポーランド人と異民族との交流は姓にも痕跡をとどめている。以下はその起源がほぼ特定されているものである (Malec 1996 : 57-58 ; Rymut 1991 : 60-70 ; Taszycki 1969 : 161-169)。ほとんどの場合、ポーランド語化されており、格変化にも適応できようになっている。今後この種の外国起源の姓は微増していくものと思われる。

アルメニア：Awedyk, Eminowicz, Kirkor, Passakas

イタリア：Bacciarelli, Bardini, Nardelli, Zanussi

ウクライナ：Czetwertyński, Harasymowicz, Kuryłowicz, Łesiów

スロヴァキア：Machay, Masar, Cieślár / Teslar, Sedlaczek

タタール：Bałaban, Mustafa / Musztafa, Safarewicz

チェコ：Anderski, Dejmek, Hawelka, Holoubek, Matejko, Tichy, Wodiczko

ドイツ：Brandstaetter, Brikner / Brykner, Estrajcher / Estreicher, Friedler, Hammer, Hercel, Ingarden, Romer, Stuhr, Waldorf / Waldorff

ハンガリー：Bafia, Batory, Kisz, Szyposz

フランス：Baudouin de Courtenay, Deskur, Puget, Vincenz

ベラルーシ：Chodkiewicz, Mickiewicz

ユダヤ：Aszkenazy, Ejzyk, Lewe, Pinkas

リトアニア：Dauksza / Dawksza, Giedrojć / Giegrojć, Narbut / Narbutt, Radziwiłł /
Radziwiłł

ルーマニア：Bahleda, Durda, Fudala, Haręza / Haręza, Kudas

ロシア：Dołgow, Gołubiew, Gorbaczew

おわりに

本稿では、ポーランド人の苗字について、その形態に着目して分類・考察を試みたが、言うまでもなく、40万種のすべてについて起源が特定できているわけではない。

日本では婚姻以外での姓の変更は極めて難しい。これは概ね常識の範囲内に収まるような姓が多く、改姓を容易に認める必要がないからであろう。つまり、たとえ多少滑稽な響きを伴う姓だとしても、社会生活を営む上で特別不利益を被るとはいえないからだと考えられる。

一方、ポーランドでは姓の変更申請は少なくない。これは、綽名派生型などで冗談の域を逸したような姓が実在することによる。次のような事例では改姓は比較的容易に認可されている¹。

例：Bałwan (間抜け), Baran (のろま), Bigos (ビゴス - ポーランド料理の名), Burek (典型的犬の名前 - 日本でいう「ポチ」), Dupka (穴, 尻), Goryl (ゴリラ), Żaba (蛙)

この場合、元の姓の全部ないし一部を残して-ski 型に変更 (例：Bigos → Bigosiński) する人が多い (Jakus-Borkowa 1998 ; Bubak 1982)。

以上、様々な姓を取り上げたが、実際には分類の困難なものも少なくない。例えば、Grochota という姓は groch (グリーンピース) から派生したと考えられるが、人名の Gromisław, Grodzisław に由来するとも考えられる。こうした分類困難な姓は実は数が少なくない。

ポーランド人の苗字に関する他の様々な問題点 (正書法, 格変化, 改姓の実際など) については稿を改めて論じたい。

参考文献

¹ 1963年のポーランドの官報 (第52号) によれば、①滑稽、あるいは人の尊厳を傷つけるような姓、②非ポーランド的な姓、③名の形をした姓、を持つ場合には、改姓が考慮されるとなっている。

- 武光誠『名字と日本人 先祖からのメッセージ』(文藝春秋, 1998)
- 丹波基二『地名苗字読み解き事典』(柏書房, 2002)
- 沼野充義『屋根の上のバイリンガル ことばの旅行術 ニューヨーク〜ワルシャワ』(筑摩書房, 1988)
- 渡辺克義編著『ポーランドを知るための60章』(明石書店, 2001)
- Henryk Borek, 'Zadania i potrzeby leksykografii onomastycznej w Polsce', *Onomastica*, XXVII, 1982.
- Ewa Jakus-Borkowa, 'Zmiany nazwisk ośmieszających we współczesnej praktyce administracyjnej' [w:] *Najnowsze przemiany nazewnicze*, pod red. E. Jakus-Borkowej i K. Nowik, Warszawa 1998.
- Józef Bubak, 'Socjolingwistyczny i prawny aspekt zmiany nazwiska w Polsce', *Onomastica*, XXVII, 1982.
- Jan St. Bystron, *Nazwiska polskie*, Lwów-Warszawa 1936.
- Dziennik Ustaw, nr 59 z 1963 r., poz. 328.
- Zofia Kaleta, 'Strukturalistyczna a strukturalna klasyfikacja nazwisk', *Polonica*, IX, 1983.
- Zofia Kaleta, *The Surname as a Cultural Value and an Ethnic Heritage : Tracing Your Polish Roots*, Warsaw, 1997.
- Bogusław Kreja, *Słowotwórstwo polskich nazwisk. Struktury sufiksalne*, Kraków 2001.
- Maria Malec, *O imionach i nazwiskach w Polsce. Tradycja i współczesność*, Kraków 1996.
- Kazimierz Rymut, *Nazwiska Polaków*, Wrocław 1991.
- Katarzyna Skowronek, *Współczesne nazwiska polskie. Studium statystyczno-kognitywne*, Kraków 2001.
- Słownik nazwisk współcześnie w Polsce używanych*, wyd. K. Rymut, t. I-X, Kraków 1995.
- Witold Taszycki, 'W sprawie słownika współczesnych nazwisk polskich', *Język Polski*, z. 2, 1967.
- Witold Taszycki, 'Czeskie i słowackie nazwiska w Polsce', *Język Polski*, z. 3, 1969.
- Jarosław M. Zawadzki, *1000 najpopularniejszych nazwisk w Polsce*, Warszawa 2002.

附録

2000年のPESELの資料によると、ポーランドのポピュラーな姓の上位100は次の通り (cf. Zawadzki 2002)。括弧内の数値は人数を表す。

1. Nowak (203,506), 2. Kowalski (139,719), 3. Wiśniewski (109,855), 4. Wójcik (99,509), 5. Kowalczyk (97,796), 6. Kamiński (94,499), 7. Lewandowski (92,449), 8. Zieliński (91,043), 9.

Szymański (89,091), 10. Woźniak (88,039), 11. Dąbrowski (86,132), 12. Kozłowski (75,962), 13. Jankowski (68,514), 14. Mazur (66,773), 15. Wojciechowski (66,362), 16. Kwiatkowski (66,017), 17. Krawczyk (64,048), 18. Kaczmarek (61,816), 19. Piotrowski (61,380), 20. Grabowski (58,393), 21. Zając (55,647), 22. Pawłowski (55,488), 23. Michalski (54,485), 24. Król (53,620), 25. Wieczorek (50,681), 26. Jabłoński (50,414), 27. Wróbel (50,375), 28. Nowakowski (49,439), 29. Majewski (48,839), 30. Olszewski (47,607), 31. Stępień (47,396), 32. Malinowski (47,056), 33. Jaworski (46,933), 34. Adamczyk (46,241), 35. Dudek (45,926), 36. Nowicki (45,612), 37. Pawlak (45,218), 38. Górski (45,045), 39. Witkowski (44,399), 40. Walczak (44,256), 41. Sikora (44,112), 42. Baran (43,730), 43. Rutkowski (43,465), 44. Michalak (42,405), 45. Szewczyk (42,329), 46. Ostrowski (41,178), 47. Tomaszewski (39,857), 48. Pietrzak (39,317), 49. Zalewski (38,745), 50. Wróblewski (38,706), 51. Marciniak (38,323), 52. Jasiński (38,240), 53. Zawadzki (37,618), 54. Bąk (37,577), 55. Jakubowski (37,329), 56. Sadowski (37,179), 57. Duda (35,719), 58. Włodarczyk (35,686), 59. Wilk (35,380), 60. Chmielewski (35,369), 61. Borkowski (34,995), 62. Sokołowski (34,277), 63. Szczepański (34,148), 64. Sawicki (33,735), 65. Kucharski (33,181), 66. Lis (33,142), 67. Maciejewski (32,297), 68. Kubiak (32,171), 69. Kalinowski (32,088), 70. Mazurek (32,084), 71. Wysocki (31,714), 72. Kołodziej (30,556), 73. Kaźmierczak (30,008), 74. Czarnecki (29,838), 75. Sobczak (29,041), 76. Konieczny (28,581), 77. Urbański (28,484), 78. Głowacki (28,191), 79. Wasilewski (27,930), 80. Sikorski (27,789), 81. Zakrzewski (27,777), 82. Krajewski (27,730), 83. Krupa (27,429), 84. Laskowski (27,291), 85. Ziółkowski (17,199), 86. Gajewski (26,992), 87. Mróz (26,855), 88. Brzeziński (26,579), 89. Szulc (26,531), 90. Szymczak (26,528), 91. Makowski (26,424), 92. Baranowski (26,450), 93. Przybylski (26,118), 94. Kaczmarczyk (26,098), 95. Borowski (26,079), 96. Błaszczak (26,078), 97. Adamski (25,996), 98. Górecki (25,628), 99. Chjnicki (25,579), 100. Kania (25,322)

Morphological Analysis on Polish Surnames

WATANABE Katsuyoshi

In this article the author analyzes Polish surnames from the morphological point of view.
Polish surnames can be roughly divided as follows:

(1)Patronymic surnames

ex. *Ambrowicz, Janowic, Janowicz, Krzysztofowicz*

(2)Matronymic surnames

ex. *Agnieszka, Ewa, Jagata, Magdzia*

(3)Surnames formed from place names

ex. *Magnuszewski, Przemyski, Racławski, Wrocławski*

More often than not they end in *-ski*, but there are a lot of other forms.

ex. *Krakowiak, Krakowian, Krakowczyk* < Kraków

(4)Surnames identical to common nouns

ex. *Kluska* (Dumpling), *Koryto* (Feeding trough), *Siekiera* (Axe)

(5)Surnames of foreign origin

ex. French – *Deskur, Puget*

Hungarian – *Bafia, Batory*

Italian – *Bacciarelli, Zanussi*

Some surnames are difficult to classify, for example the surname *San*, which could have developed from the river name *San*, or from the man's name *Aleksander*.